

## 中学生のための子育て理解講座

**趣 旨** 当市では、出生数減少等の理由から乳児と接する機会がないまま成人を迎える若者が増加しています。その結果、他人とどう付き合えばよいのか、家族や他人への思いやりの気持ちや心が育ちにくくなっており、大人になった時には、どう我が子と接したらよいのか悩む保護者が増加しています。思春期の子ども達が赤ちゃんと触れ合う事によって、赤ちゃんや幼児のいることのすばらしさと「いのち」や「こころ」の尊さを実感することを目的としています。

**実施主体** 糸魚川市

**参加対象** 市内の中学2年生

**参加者数** 約30名

**回 数** 5回                      **日 数** 1日                      **時 間** 1時間

**場 所** 市内公立幼稚園・保育園

### 内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	9月26日～10月24日のうち5日 10:00～11:00	赤ちゃんとの触れ合い体験を経験し、赤ちゃんや幼児のいることのすばらしさと「いのち」や「こころ」の尊さを実感する。	ボランティアのお母さんと赤ちゃん 保健師
1	内容・方法	1. 当日までの準備（家庭科授業） (1) 中学校の家庭科の授業の一環として、幼稚園・保育園訪問を実施しています。クラスごとの家庭科授業中（クラスを4～5名のグループに分け、各年齢の子ども達とふれあい体験をします。）に園児と遊び、保育士、お母さんへ質問等を行います。 (2) 子ども達にボランティアのお母さんへの質問（子育ては大変か？出産はどうだったかなど自由に）を考えてきていただいています。 (3) 各自、自分が生まれたときの事、赤ちゃんの時どうだったか、どんな思いで名前をつけたのか家族に聞く機会を持ち、母子手帳があれば見てきてもらっています。 2. 当日の日程（保健師が担当） (1) はじめのあいさつ（全体会） 終了後、グループに別れます。赤ちゃん組は、ボランティア親子と1室に入ります。 (2) 中学生の自己紹介とボランティアの自己紹介赤ちゃんの抱っこの仕方についての説明（保健師） (3) ふれあい体験 （抱っこ、おんぶ、おむつ交換、ミルクあげ、あやす等 時にはおっぱいをあげているところを見せてもらったりしています（女生徒限定）。） (4) お母さんへの質問（あらかじめ質問を考えてきてもらっています。） (5) 終わりのあいさつ	

**成 果** ・ 中学生は、赤ちゃんに優しく接することができ、自分の成長を振り返り、父母の思いを確認できた。ボランティアのお母さんも成長する子どもの様子を我が子に重ねて確認でき、自分の子育てについて、自信ややる気、元気を吹き込んでくれるなど相乗効果は大きい。

**課 題** ・ ボランティア親子の人数確保の問題等で中学生全員が体験できない。

**問合せ先** 糸魚川市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係  
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号  
Tel 025-552-1511(内線2335) Fax 025-552-7372 gakusyuu@city.itoigawa.niigata.jp